



文化学園リポジトリ

Academic Repository of BUNKA GAKUEN

服飾文化共同研究拠点／文化ファッション研究機構

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture / Bunka Fashion Research Institute

文化学園大学

Bunka Gakuen University

文化服装学院

Bunka Fashion College

文化ファッション大学院大学

Bunka Fashion Graduate University

文化外国語専門学校

Bunka Institute of Language

Title	実践報告日本語教師養成科卒業生支援の試み
Author(s)	角本, 浩美; 杉田, 昌俊; 福田, 由美
Citation	文化外国語専門学校紀要 32 (2020) pp.1-29
Issue Date	2020-02
URL	http://hdl.handle.net/10457/2937
Rights	

実践報告

日本語教師養成科卒業生支援の試み

日本語科 専任教授 角本 浩美

日本語科 専任教授 杉田 昌俊

日本語科 専任教授 福田 由美

・要旨

本校の日本語教師養成科の卒業生のうち、日本語教育に携わっている人を対象に、学校としてどのような支援ができるのだろうか。支援の内容を模索するために、教師が教育活動中に使用する日本語をより質の高いものにしていくこと、教育能力のブラッシュアップのために授業見学と意見交換の場を設定することの2つの試みを行った。

・キーワード

追跡調査、非日本語母語話者教師、卒業生のサポート、教師の使用する日本語、オンライン授業見学

1. 「試み」実施の経緯

文化外国語専門学校（以下「本校」とする）日本語教師養成科（以下「養成科」とする）では、1999年以降卒業生（本稿の中で「卒業生」と記した場合は「本校養成科の卒業生」を指すものとする）を対象に追跡調査を行ってきた。そして、その調査結果をもとに教育内容などを改善し、よりよい教育を追求してきた。

この追跡調査は、養成科の授業担当教員が調査の必要性を感じたときに行ってきたもので、これまでに2つの調査を行った。調査の概要は以下の通りである。

第1次調査 調査期間：1999年10月～2002年3月

調査回数：3回

内容報告：『文化外国語専門学校紀要』17号 2003年

第2次調査 調査期間：2016年10月～2017年9月

調査回数：2回

内容報告：『文化外国語専門学校紀要』31号 2019年

上記追跡調査の第2次調査の結果が、この「試み」実施のきっかけである。本校紀要31号の中で角本、杉田、福田（以下「我々」とする）は、調査の目標の一つとして「学校として卒業生の教育活動のためにどのような支援ができるかを探る」と記した。

また、その中で卒業生のサポート体制の充実化についてまとめた際、卒業生の要望を受けて、今後必要になる支援として以下の4点を考えた。

- ①卒業生の日本語力の維持、向上のために役立つものの提供
- ②現在の養成科教員および過去に養成科を担当した教員（以下「養成科教員」とする）との交流、及び、出身国や卒業年次を越えての卒業生同士の交流が可能な場の設定
- ③疑問や問題が発生したときに養成科教員に相談したり、卒業生同士が情報や意見を交換したりできるような、そして疑問や問題がすぐに解決できるようなシステムの構築、もしくは場の設定
- ④卒業生がある情報を共有することを望んだ場合に、それが実現できる場の設定

そして、調査の結果、直接法で、または一部直接法を取り入れた方法で授業を行っている卒業生が4割程度存在することがわかったため、同紀要の中で、「卒業後も直接法の授業を見る機会があれば役立つのではないかと考え、本校教員の授業動画を共有し意見交換ができるような活動を計画している」とまとめた。

そこで2019年度は、卒業生のサポート体制の充実化のために、「卒業後の支援の試み」を行うことにしたのである。行った試みは、以下2.で述べる卒業生の使用日本語調査と以下3.で述べるオンライン授業見学である。前者は、主に卒業生の日本語力向上のための支援に関わるものであり、先に述べた①の方法を模索するための試みである。後者は、主に卒業生の日本語教育能力向上のための支援に関わるものであり、授業見学の機会を提供すると同時に②③④を実現するための試みである。

本稿は、この2つの試みについての報告である。

2. 使用日本語調査

2-1. 目的、対象者、方法

この調査の目的は、卒業生が教授活動の場で使用している日本語の実態を調べ、その調査結果を卒業生同士が共有することによって、彼らの日本語力の維持、向上を図ることである。また同時に、卒業生の教授活動に対する意識を高められたらよいだろうと考えた。

調査対象者は、先に1.で述べた第2次調査で行った2回の調査に回答した卒業生のうち現在日本語を教えている人と最近まで教えていた人を合わせた16名と、回答者ではないが現在日本で多国籍の学習者に日本語を教えている1名の計17名である。

第2次調査の中でメールでのやり取りに不便さを感じているという意見や、インターネットを利用した方法への要望が見られたため、今回の調査は、インターネットを利用した卒業生支援の方法を模索するという目的で、実験的にグーグルフォームを使用して行った。調査は2019年4月26日にメールにて依頼し、調査対象者にURLを知らせた。また、依頼する際に、前述の調査目的と、調査後の結果利用に関する説明^{注(1)}をつけた。調査内容は資料1参照。

2-2. 調査結果

2-1. で述べた調査対象者 17 名のうち、13 名から回答が得られた。

調査結果を見ると、ほぼ全ての項目について 5 割以上の回答者が「日本語でやっている」と答えている。

項目ごとに見ると「日本語でやっている」という回答が 8 割を超えるものは、あいさつ（資料 2-1、2）、あいづち（同 17）や 感想など学習者の発話に対するリアクション（同 14、15、18、20）、指示（同 9、19）、雑談（同 3）、学習項目を使用しての学習者とのやり取り（同 12）であった。また、文法、言葉、日本文化など説明（同 4～8）の日本語使用の割合は 5 割前後となっている。調査結果は、資料 2 参照。

2-3. 考察

回答者の 8 割が日本語で行っている「あいさつ、あいづち、感想、指示」は決まり文句が多いためか、使用する言葉は回答者の間でほぼ共通しており、我々が日常の教授活動で使用するものとも類似していた。また、これらの言葉は、言いやすく、日本語学習初期段階の学習者にも理解されやすいため、使用している人が多いのだろうと考えられる。

学習者の発話に対するリアクションは、通常会話の中で自然に発生するものであるが、それを日本語の授業内で行っているということは、回答者の教室が日本語を使ったリアルコミュニケーションの場となっていると言ってよいだろう。

文法項目などの説明は母語を使ったほうが圧倒的にわかりやすく簡潔にできるので、我々は当初日本語の使用はあまりないだろうと予想していた。この予想の根拠となったのは、第 2 次調査の 2 回目の調査において、ノンネイティブ日本語教師の長所として文法、語彙などの説明に母語を利用できることを挙げた回答が多く見られたことである。^{注(2)}しかし今回の使用言語調査では、回答者の 5 割以上が説明の際にも日本語を使用していることがわかった。具体的には、ジェスチャーと共に日本語を使用する、類語を挙げる、日本語で例を挙げて理解を促すなどの方法を行っているようだ。このことは、在学中に行う教壇実習^{注(3)}の直接法による授業経験が生かされていると思われる。

2-4. 調査結果の共有

調査対象者から得られた回答は集計し、回答にあった具体的なセリフの一部は、そのままではなく、手を加えて項目ごとに一覧化し、回答者全員に送った。

セリフを一覧化する際に行ったことは、以下の 2 点である。

①文法や語彙の誤用の訂正

訂正した部分に色付けを行った。誤用は日本語学習者が間違えがちであったり、学習レベルが上がってもなかなか直らなかつたりするものであったため、注意喚起のために色を付けて目立たせた。また、より適切な、自然な言い方がある場合は、それを掲載した。

②教育の場にふさわしくないと判断した回答の削除

ふさわしいかどうかは、我々が判断した。削除したのは、例えば粗野で教育の場にふさわしくない言葉遣いである。

結果一覧を調査対象者に開示し共有できる形にしたのは、共有した卒業生が、適切に使用できる日本語を増やしたり、他者の実際を知ることで自身の日本語を振り返ったり、他者の実例から学んだりできるのではないかと考えたからである。

またこの結果は養成科通信^{注(4)}を利用して発信し、今回の調査対象者以外の卒業生も情報を共有できるようにした。

2-5. 使用日本語調査による卒業生支援の今後の可能性

今回の支援方法を模索する試みの一つとして行った使用日本語調査の過程及び結果から、1.の①で述べた卒業生の日本語力の維持向上のために養成科教員ができることは、具体的なニーズを把握し、調査が必要であればそれを調査し、訂正や削除など、手を加えて、共有できる形にして提供することだと考える。

今回の使用言語調査の使用場面は我々が決めたものであるが、今後調査をするのであれば、卒業生が実際に知りたいことを把握する必要もあるだろう。

調査結果をそのまま共有するのではなく、今回のように養成科教員が手を加えた情報を提供することにしたのは第2次調査^{注(5)}の結果、①「日本語教育関連もしくはそれ以外の日本語を使う仕事に就いているが、日本語力の維持、特に会話力と語彙力の低下に対する不安を感じている卒業生が多いということ」が明らかになったこと、②日本語が母語ではない教師の短所として「学習者や自分が使用している日本語が文法的に正しくても本当に日本人が頻繁に使う表現かどうかをその場で判断できない」という悩みを持つ卒業生が存在することがわかったということも挙げられる。つまり、卒業生の中には、自分が発する日本語や、周囲の日本語非母語話者の日本語についてそれが正しい、もしくは適切な日本語であるかどうかを判断するという行為に自信を持ってない人がおり、そのような卒業生にとっては、ネイティブの日本語教師が手を加えたという事実は重要であろうと考えたのである。また、例えば、資料2の赤い文字の意味付けのように、養成科教員が提示の方法を考えることで、調査結果を卒業生にとってより有効なものにすることができると考えたことも結果を加工した理由の一つである。

3. オンライン授業見学

3-1. 目的、対象者、方法

1.で述べた通り、「卒業生支援の試み」の一つとしてYouTubeを使用しての授業見学を実験的に行った。YouTubeを使用して授業見学を行うことにしたのは、視聴者を限定でき、コメント入力や返信機能などを使用することで、1.の②③④を実現できる可能性があると考えたからである。

そこで、2.で述べた使用言語調査の依頼と同時に、見学参加者を募った。ただし、今回は支援として実現できるかどうかをはかるために、確実に参加してもらい意見を集める必

要があったため、参加案内は以下の条件を満たす8名に送った。

- ・第2次調査の2回目の調査において「教師養成科の卒業生であるあなたとほかのノンネイティブの教師を比べるとどのような点が違うと思いますか」という質問に「直接法で教えられることが養成科卒業生の強みである」と答えた卒業生
- ・第2次調査の2回目の調査において「いつもどんな考えを持って教えていますか」という質問に「なるべく日本語で受け答えをしたり、指示したりしようと思う」と答えた卒業生
- ・日本で教えている卒業生

この試みの目的は、日本語教師をしている卒業生の教育能力のブラッシュアップと、養成科教員や卒業生同士が交流でき、意見交換や情報交換ができる場、お互いに勉強し合える場の設定（前述1-②③④）を模索することである。

現在養成科の「教育学」の教材として、本校日本語科で実際に行っている授業を撮影した動画がいくつかある^{注(6)}。その中から、我々の一人が行った初級文型導入の授業を見学対象として選定した。教授項目は『文化初級日本語Ⅰ』第9課文型4「てもいいですか」である。この授業を今回の試みの素材として適当であると判断した理由は、「てもいいですか」がどの教科書でも比較的初級の前半で扱われており、海外の日本語教育機関においても教えている可能性が高いと思われること、見学参加者である卒業生が自分たちの日々の授業と照らし合わせやすいのではないかと考えたことである。

参加者募集の案内は、2.の使用言語調査と同時にを行った。また、方法は、以下の通りである。

1. 活動の目的、概要について説明し、参加者を募集すると同時に以下の手順を知らせる。

手順①動画視聴前に、見学する授業の教授項目「てもいいですか」について、自分ならどのように教えるか、資料（『文化初級日本語Ⅰ』、教師用指導手引書第9課文型4。これらは参加者募集のメールに添付した。）を参考にして考える。

手順②動画を視聴する。動画はURLを知っている人のみの限定公開であり、URLを他人に教えないよう注意する。メールに添付した、授業担当者による指導案を参考にしてもよい。視聴回数などの制限はなく、各自の都合に合わせて自由に行う。

手順③YouTubeにログインし、コメントを投稿する。

手順④ほかの参加者のコメントを読み、それに対するコメントをさらに投稿する。

（手順③と④は適宜繰り返し行い、参加者全員によるディスカッションがインターネットを通じて行われることが望ましい。）

2. 参加希望者に動画のURLおよび指導案をメールで配信する。
3. 動画公開当日に確認のメールを配信する。
4. 動画視聴期間に我々も適宜参加し、投稿されたコメントに対して返信したり、コメントが少ない場合は促したりする。

3-2. 結果

3-2-1. 活動の経過

参加案内を送った8名のうち、6名の卒業生が参加することになった。

動画視聴開始後しばらくの間、視聴回数は増加するもののコメントの書き込みが見られなかった。以下コメントの経過を記すが、()の中の番号は、資料3にまとめたコメント一覧中の番号である。

初めに入ったコメントは、書き込むコメントについての質問であった(2)。 (2)に対しては見学授業を実施した教員が返信し、もう一人の教員が気軽に書き込むことを意図して作った文言で参加者全員に向けてコメントを書き込んだ(4)。また、もう一人の教員は、書き込むべき内容は簡単なことでもいいということを示唆すべく、授業に対する感想を一言(5)、短い質問を1つ(6)書き込んだ。

その後書き込んだのは、最初に書き込んだ卒業生Aで、しばらくの間T1とのやり取りが続いた(8)~(17)。その後卒業生Bからの書き込みがあり(18)、動画視聴締め切り間際、卒業生Cからかなりの量のコメントが届いた(20)。このCへの返信以降、卒業生CとのT1とのやり取りが続いた。

動画視聴期間中の最終的な視聴回数は127回になり、参加者が何回も視聴していることが伺えた。

3-2-2. 結果

活動経過で述べた通り、コメントの書き込みを行ったのは参加者6名中3名であった。

相互のやり取りについて見てみると、教員と卒業生のやり取りはあったものの、卒業生同士のやり取りは皆無であった。

卒業生が書き込んだ内容(資料3参照)は、視聴後の感想(18)をはじめ、今回見学した授業に直接かかわるもの(16)、ほかの授業においても考える必要がある事柄(8、10、14など)、自身の授業との対比(20)など、さまざまであった。

授業担当教員は、卒業生からの質問には必ず答えるようにし、卒業生のコメントの中に理解しにくい表現(10「聞く教材」)があれば確認のためにこちらから質問もした。また、この活動の目的である「卒業生同士の意見交換や交流」を実現させるために、「皆さんどう思いますか?コメントをぜひお願いします」などの書き込みをし、一人の意見についてほかの卒業生もコメントをするよう促した。また、意見交換が「てもいいですか」の授業に関することにとどまらず、卒業生の日頃の教育活動に直結するヒントとなるように、自身の経験からの提案(21、23)も行った。

3-3. 考察および反省

今回のYoutube 授業見学への参加を辞退した人が1名いた。その理由は、「視聴期間に授業があって、コメントが書き込めない」ということであった。つまり、「コメントを書き込むことを視聴するための必須項目と考えて、それが時間的に難しい」ということで参加し

ないといった判断がなされたのである。このような判断によって、卒業生が自分にとって必要だと考える活動に参加できないのは「卒業生のための」支援活動の望ましい形とは言えない。卒業生が必要だと思える活動には躊躇せずに参加できるようにしたい。

また、このコメント記入に関しては、参加者6名のうち半数しか参加しなかった。今回のオンライン授業見学の活動にコメントの書き込みを取り入れたのは、1の②③で述べた交流が可能な場や意見交換の場の設定やそのシステムの構築を模索するためであったが、半数の参加者が書き込まなかったのである。その理由が例えば「コメントを書き込んでやり取りすることに抵抗感がある」といった活動自体への抵抗感である場合、卒業生に役立ち、同時に望まれる形の支援活動とは言えないので、コメントの書き込みをしなかった参加者から書き込まなかった理由を集める必要が生じた。

卒業生同士の書き込み、つまりほかの卒業生の書き込みに対してのコメントがなかったことの原因は、事前に参加者同士がネット上でお互いのある程度知り合えるような機会を作らなかったことにあると思われる。我々は卒業年次が違っていても関わらず、卒業生をひとまとまりにして、卒業生同士ということでも気軽にものが言える環境にあるかのように錯覚していた。考えてみれば、全く知らない相手のコメントや疑問に対して、コメントを書き込むというのは、やりにくいことだろう。もし今回と同じような形式でこの活動を行うのであれば、例えば、卒業年や国籍など短い自己紹介をするような機会を設けてから、動画視聴を始めたほうがいいのかもかもしれない。そのことによって、在籍年度が違っていても養成科の卒業生であるという結びつきや、共に学び合い向上するという意識も生まれる可能性がある。ほかにもコメントを書き込まなかった理由が存在するのかどうかを知りたいと考えた。また、この形式での授業見学の必要性や方法を検討し、支援方法を具体化するためには、一人一人の視聴状況を把握する必要がある。そこで、今回のオンライン授業見学に参加した6名に追加調査を行うことにした。

3-4. 追加調査

調査項目は以下の7点で、メールで配信し答えを送付してもらった。調査で使用したアンケートは資料4参照。

1. 動画を見たか。
2. コメントしたか。
3. ほかの人のコメントを読んだか。
4. ほかの人のコメントに対してコメントしたか。
5. この活動は役に立ったか。
6. このような機会がまたあれば授業を見たいか。
7. 今後、養成科に望むサポートの内容

この調査には4名の回答があった。その内容は以下の通りである。

質問項目	卒業生A (台湾、日本の日本語学校の教員)	卒業生B (台湾、日本の日本語学校の教員)	卒業生C (台湾、自分の日本語学校を設立して教えている)	卒業生D (台湾、大学の教員)
1	3～4回見た。	3回ぐらい見た。	1回見た。	合わせて数回見た。
2	コメントした。	コメントしなかった。しようと思ったが、最後には遠慮した。また、教え方がいかどうか言えないし、先生の教え方について口を出すのは申し訳ないという気持ちがあったのでコメントしなかった。	コメントした。	コメントした。
3	読んだ。自分の見る方向が違ったなど考えた。	読んだ。ちゃんと気持ちが言えるのはすごいと思った。そしてコメントに関連している動画の部分をもう一度見た。	読んだ。ほかの人のコメントに対しては記憶が曖昧になってしまった。	読んだ。働く環境が異なると、着眼点も違うと感じた。
4	コメントしなかった。自信がなかったから。	コメントしなかった。	コメントしなかった。ほかの人のコメントを読んで、先生への質問だと思ったから。	コメントしなかった。同じ養成科の修了生でありながら、おそらく面識のない方が多いので、何をどこまで書いていいか判断できなかった。そのため、先生のコメントに対してさらに質問をしたのだが、ほかの人のコメントに対しては特にコメントはしなかった。

<p>5</p>	<p>役に立った。自分の導入のし方を勉強しなおした。</p>	<p>役に立った。この文法項目ではこんな練習ができると気づいたり、あのときあんな感じで文型導入したなど思い出したり、いろいろなことを思った。いいところを真似したいと思う。</p>	<p>役に立った。(動画を見たこと、コメントを書いたこと、コメントに対するフィードバックをもらったこと) 台湾で教えるとき、つい母国語で教えてしまったことが多い。動画を見て、なるべく日本語だけの授業をしたいという初心を思い出した。</p>	<p>養成科に在籍していた頃、初級の授業を見学したが、何に着目して見たらいいかわからない、という気持ちは当時ちょっとあったような気がする。 今回T1先生の授業を拝見することにより、以前勉強したことを思い出しながら、「BIL流」の授業の行い方を再確認することができた。 そして、現在置かれている環境の中でいかに活かせるかについても再び考えるようになった。</p>
<p>6</p>	<p>今回と同じ方法で見たい。</p>	<p>今回と同じ方法で見たい。</p>	<p>今回と同じ方法で見たい。</p>	<p>今回と同じ方法で見るとなかなかいい方法だと思うが、学生の表情、反応、その場の雰囲気など、一部カメラに映ることが難しいことについても可能であれば同時に見ることができたらいいと思う。また実際に授業を見学する方法もあればうれしい。</p>
<p>7</p>	<p>要望はあるが、まだ具体的な形になっていない。</p>		<p>養成科で勉強していたとき、初級をメインに勉強した。今、95%ぐらいは初級の授業だが、これから中上級の学習をしたいという要望が生徒から出てくるかもしれないので、もし可能であれば、中級や中上級のテキストの選び方と使い方、そして四技能の教え方のヒントがもらえると幸いです。</p>	<p>現役の教師を対象とする短期コースもあればいいなと思った。</p>

3-5. オンライン授業見学の今後の可能性

卒業生がオンラインで授業を見て、自分自身の授業を振り返ったり、授業改善のためのヒントを得たりしていることがわかった。この活動が全体として役に立ったと肯定的にとらえられており、今後も同様の方法で授業見学の機会を設けることが望まれている。第2次調査で卒業生から「インターネットを利用した支援の方法」が要望として挙げられたことを受けて、YouTubeを利用するという形式を取ったが、参加した卒業生全員が「今回と同じ方法でまた見たい」と答えており、卒業生のニーズに合った方法だったと言えよう。

卒業生は様々な教育環境の中でそれぞれ違った経験を積み、個々が抱える課題も様々である。我々がそれらの課題を一つ一つ拾い上げて解決策を提案するような形での支援には限界がある。しかし、見学者の個人的な背景によって得られるものが異なる授業見学という活動であれば、参加者全員が自己成長のための何らかのヒントを得ることができるだろう。ただし、現実には、日本語教育に携わっている者が、ほかの教師の授業を見る機会に恵まれないことも多い。ゆえに、卒業生に対して我々がその機会を提供することは意味があるだろう。

その授業見学をオンラインで行うことの長所としては、一つの動画を自分の都合に合わせて、いつでも、そして何度でも、また興味ある個所を繰り返し見られることが挙げられる。今回は試験的に少人数での開催であったが、次回からはもっと大勢の卒業生に呼びかけてオンライン授業見学の機会を設けたい。ただし、その際には以下のような留意点がある。

一つ目は、コメント欄の活用方法を具体的に示し、コメントをしやすい環境を整えることである。1で述べたように、この活動は、卒業生同士が出身国や卒業年次を越えて意見交換し、さらにその意見交換の内容を、この活動に参加していないほかの卒業生も見ることで刺激を受けることができるということを目指して行ったものである。しかし、インターネットという「相手の顔が見えない場」において、知らない相手といきなり意見交換をするのは心理的に抵抗があるだろう。それに加えて、YouTubeでコメントを残した場合はアカウント名が表示されるため、互いに本名を知らないままやり取りをすることになる。動画は非公開であり、URLを知っている卒業生だけが見ることができるようになっているが、それでも名前や出身、日本語教育との関わりなどの個人情報を開示してコメントのやり取りを行うことに抵抗を感じる人もいるだろう。インターネットは確かに便利なコミュニケーションツールではあるが、参加者同士が親近感を持ち、安心して意見交換ができるようにするための工夫が必要である。

二つ目は、公開する動画の位置づけを明確にすることである。今回は初めての試みとして、我々のうち一人が行った授業の動画を用いたが、それは卒業生にとって「先生の授業」であり、気軽にコメントができるようなものではなかったのかもしれない。どのようなコメントが求められているのかを明確に伝え、「コメントをすること＝評価すること」ではないという意識付けが必要であろう。

三つ目は、肖像権などの問題である。今回の追加調査(3-4)の回答の中に「学生の表情、反応、その場の雰囲気なども見られるとよい」という意見もあった。現役の日本語教師にとっ

ては知りたいポイントではあろうが、通常の授業を動画撮影するにあたっては、日本語学習者の肖像権についても留意すべきであり、生の授業見学のように教室内の全てが見られるわけではないということをあらかじめ見学者に伝えておく必要がある。

4. おわりに

今回2つの支援活動を試み、日本語教育に携わっている卒業生の半数以上が授業内で日本語を使用していることがわかった。そのような卒業生にとってオンライン授業見学は有意義な支援活動だということもわかった。そこで、今回行った2つの試みの結果を、調査に参加しなかった卒業生にも何らかの形で共有したい。その方法としては、現段階では養成科通信の利用が考えられるが、第2次調査の結果、メールではない形で共有したいという要望が出ていたので、適当な方法を今後模索していきたい。

注

- (1) 結果を卒業生の間でシェアすること、結果を活用してほしいことなど。
- (2) 詳細は本校紀要31号、資料4参照。
- (3) 文法や言葉の説明も含め、全て日本語で行われている。
- (4) 卒業生に向けて様々な日本の情報をメールで発信しているもの。
- (5) 本校紀要31号参照。
- (6) 初級文型導入の授業のほかに、初級の四技能に関連した授業、中上級の文型導入や教科書の本文の授業などさまざまである。授業撮影については学習者の了承を得ており、教師を中心に撮影し学習者の顔が映らないように配慮した。

参考文献

- 杉田昌俊 角本浩美 「日本語教師養成科の卒業生を対象とした追跡調査（第1次調査）」『文化外国語専門学校紀要』17号、2003年
- 角本浩美 杉田昌俊 福田由美 「日本語教師養成科の卒業生を対象とした追跡調査（第2次調査）」『文化外国語専門学校紀要』31号、2019年

資料1 アンケート項目一覧と指示内容

1. 授業の始まりのあいさつをする
2. 授業の終わりを告げる
3. 雑談をする（天気や旬の話題など）
4. 文法について説明する
5. 言葉の意味や使い方について説明する
6. 日本文化などについて説明する
7. 学習活動の目的を伝える
8. 練習や活動のやり方を説明する
9. 学習者に指示する（見てください、など）
10. 一つの活動から次への移行合図をする（じゃあ、次は～、など）
11. スタートなどの合図をする（せーの、など）
12. 学習項目を使って学習者と会話をする
13. 学習者に発話を促す（ほかには？ それから？など）
14. 学習者の発話が正しいということを伝える
15. 学習者の発話が間違っていることを伝えたり、訂正したりする
16. 学習者の発話を言い換える
17. 学習者の発話にあいづちを打つ（そうですか、など）
18. 学習者の発話に対して感想を言う（珍しいですね、など）
19. 質問の有無を尋ねる（質問はありますか、など）
20. 学習者をほめる（すばらしい、など）
21. 学習者を叱る（遅刻してはいけません、など）
22. 教師が独り言を言う（なんだっけ、など）
23. 自分（教師）の間違いを訂正する（間違えました、など）
24. 宿題の内容を説明する

指示内容

上記の項目について、以下のような言葉で指示し答えを選択してもらった。

授業中に教師（皆様ご自身）が日本語で「やっている」か「やっていない」かを、お答えください。
頻度は問いませんので、時々であってもやっていると感じれば「やっている」を選択してください。

選択後、「やっている」と答えた人に、以下のように入力を依頼した。

具体的には、どのような日本語で話していますか。よく言うセリフを書いてください。

資料2 教師の日本語使用に関するアンケート 回答結果（回答者に送ったフォーム）

回答の中の赤字の部分は、より自然な日本語表現に変更させていただいた部分です。そして、教室使用には不適切だと判断した表現は、一部削除させていただいたことをお断りしておきます。また、こちらからのコメントがあれば、青字で入れました。

1. 授業の始まりのあいさつをする

13件の回答



<具体的な言葉>

- ・おはようございます。/ こんばんは。/ こんにちは。
- ・わたしは〇〇です。〇〇曜日の先生です。よろしくお願いします。
- ・出席をとります。
- ・では始めましょう。
- ・もうご飯を食べましたか。
- ・皆さん、今日はちょっと疲れているようですね。
- ・今日は**は**学生が少ないですね。みんなどうしましたか。

2. 授業の終わりを告げる

13件の回答



<具体的な言葉>

- ・今日はこれで終わりにします。
- ・今日の授業はここまでです。
- ・皆さんお疲れ様でした。
- ・今日の内容について、質問**は**ありませんか。特になければ、今日の授業はこの辺で終わりにしたいと思います。
- ・今日は～の使い方について勉強しました。
- ・今日出した宿題を必ず**して**きてください。
- ・宿題は○ページから◎ページまで**です**。忘れないで練習してきてくださいね。
- ・次は～を勉強します。(次回の予告)
- ・わからないとき**は**いつでも聞いてくださいね。
- ・皆さん、さようなら。また来週。

3. 雑談をする（天気や旬の話題など）

13件の回答

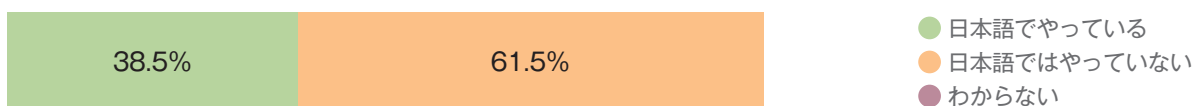


<具体的な言葉>

- ・きのう何時に寝ましたか。今日何時に起きましたか。
- ・週末どこへ行きましたか。休日に何をしましたか。
- ・仕事は忙しいですか。
- ・今日は何月何日ですか。何曜日ですか。
- ・急に暑く／涼しく／寒くなりましたね。
- ・まだ3月なのに、もう夏が来たって感じですね。
- ・暑くても、頑張ってるね。
- ・今日はいい天気ですね。
- ・週末の天気はどうでしょうか。
- ・この前、大学で〇〇のイベントがありましたが、行きましたか。
- ・大学の近くに新しいお店ができて、すごい行列だそうです。皆さんも行きましたか。
- ・最近、日本で～（例：体幹ダイエットなど）がすごくはやっているようです。一緒にチャレンジしてみませんか。
- ・昨日のニュース、見ましたか。
- ・〇〇の話、みんな知ってますか。
- ・日本は～です。みんなの国はどうですか。～についてどう思いますか。
- ・日本のドラマを見ていますか。どんなドラマを見ていますか。おすすめのドラマがありますか。
- ・自分の家族の話などをする。
- ・母国語と違う意味を持っている日本語を紹介したりしている。

4. 文法について説明する

13件の回答

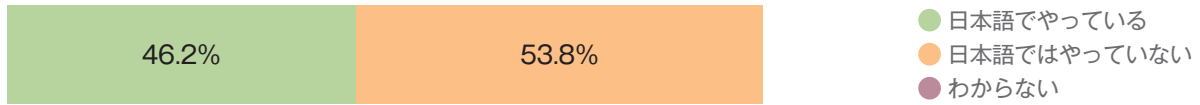


<具体的な言葉>

- ・まず、動詞には3つのグループがありますね。
 - ・「～ます」は1グループです。辞書形はウ段音です。
 - ・「～んです」の前は普通形です。「ます」の普通形は「辞書形」です。「ません」の普通形は「ない形」です。「ました」の普通形は「た形」です。「ませんでした」の普通形は「なかった」です。
 - ・今日のポイントはて形です、て形はよく使いますよ。
 - ・ですから、て形の変化のルールはほんとうに大事です。
 - ・私と一緒に練習してくださいね。
- ※「特に決まったセリフはなく、言葉は文法項目によって違う」「文法の説明は少なく、たくさん例を出して理解させる」という回答も4名あった。

5. 言葉の意味や使い方について説明する

13件の回答

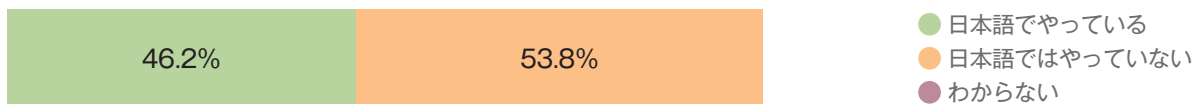


<具体的な言葉>

- ・皆さんは〇〇という言葉を勉強しましたね。その言葉と意味が似ています。
 - ・〇〇と大体同じです。でもちょっと硬い表現です。
 - ・例えば、「礼金」の場合：「大家さんは皆さんに部屋を貸します。皆さんはうれしいです。ありがとうございます。お金を渡します。そのお金は礼金です。」
 - ・既習語彙を使って言い換える。
 - ・類義語の場合、両者の違いも説明します。
 - ・簡単な日本語で話しています。特に決まったセリフはありません。言葉によって、写真(イラスト)や板書を使ったり、ジェスチャーをしたりして、意味や使い方を説明します。
 - ・このカードを見てください、この人は何をしていますか。これは××××です。
(もし本当にわかってくれない場合は、少し中国語を入れます。)
 - ・例文を作って話すことが多い。帰る / 戻るなど。
 - ・どんな場面で使うのか日本語で例をあげて説明する。
- ※「あまり説明はしない」という回答もあった。

6. 日本文化などについて説明する

13件の回答



<具体的な言葉>

- ・(助詞「で」を教えてから) 日本は箸でご飯を食べます。
- ・(初級クラスで) 電車の中の飲食について、「台湾の MRT の中で、食べたり飲んだりしてもいいですか。だめですね。台湾の MRT の中で、食べたり飲んだりしてはいけませんが、日本ではお茶などを飲んでも大丈夫です。食べ物も大丈夫です。でも、においの強いものはあまり食べません。」など。
- ・簡単な日本語で話しています。でも、日本文化を説明する機会はそんなに多くなく、話す場面があったとき、言うセリフは大体「自分の国の文化と日本の文化は同じところもありますが、違うところもあります。」となります。
- ・日本では1年の中で特別な日に特別な料理を食べます。例えば、お正月におせち料理を食べます。… (詳しい説明は中国語を使います)
- ・例えば、七夕のとき、文化を説明しながら短冊の書き方を教える。「～なりますように」など。

7. 学習活動の目的を伝える

13件の回答



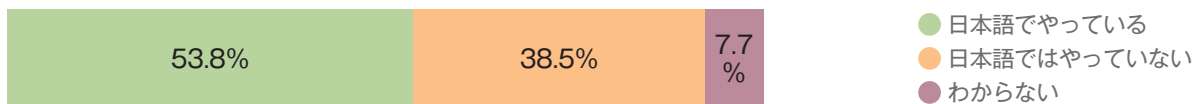
<具体的な言葉>

- ・簡単な日本語で話しています。学習内容によってセリフが変わります。特に決まったセリフがありません。
- ・はやく順番に並んでください。／授業の時間ですよ、席についてください。

※ここで「学習活動の目的」というのは、例えば「目上の人に、失礼にならないように話しましょう」「友達を誘う会話をしましょう」などを指していましたが、そのことが皆さんに適切に伝わらなかったかもしれません。

8. 練習や活動のやり方を説明する

13件の回答



<具体的な言葉>

- ・これからちょっと聞く練習をします。短い会話を聞きます。まず絵を見てください。会話の内容と合っているものに○を、合っていないものに×を書いてください。自信のある人はキーワードも書いてください。
- ・では、ペアになって練習してください。Aさんをやる人はAのカード、Bさんをやる人はBのカードを見てください。自分のカードを友達に見せないでくださいね。
- ・～を使って、文を完成してください。
- ・○○さんは△△さんに聞いてください。
- ・「～たり～たり」を使ってください。
- ・「～てから」を使って、文を3つ作ってください。
- ・今日は皆さんと一緒に“これ”を練習します。
- ・例文を作ってみましょう。

9. 学習者に指示する（見てください、など）

13件の回答



<具体的な言葉>

- ・私を見てください。／ホワイトボードを見てください。／カレンダーを見てください。／（パワーポイントを使う場合）ちょっと前を見てください。／教科書の〇ページを見てください。
- ・声を出して読んでください。／声を出さずに目で読んでください。
- ・1分間、考えてください。
- ・日本語で話してください。
- ・アクセントに注意して、もう一度読んでください。
- ・隣同士で練習してください。／グループになってやりましょう。
- ・一緒に読んでみましょう。どうぞ。
- ・〇〇さんに聞いてください。
- ・質問を聞いて、答えてください。
- ・宿題を出してください
- ・私の口を見ながら、シャドーイングをしましょう。
- ・はい、今日は第～課に入ります。教科書を開いて、～ページのところを見てください。～ページです。
- ・次は～さん。

10. 一つの活動から次への移行合図をする（じゃあ、次は～、など）

13件の回答

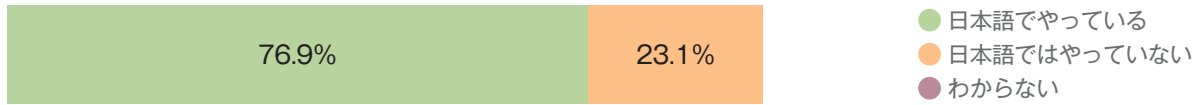


<具体的な言葉>

- ・次のページを開けてください。次は3番です。
- ・では（／じゃ）、次の練習をしましょう。
- ・では、2番の練習に移ります。
- ・以上が、〇〇の練習でした。次は〇〇に行きます。
- ・じゃあ、次の質問は…
- ・さて、もう終わりましたか。
- ・続いて、プリントを見てください。
- ・はい～～ここまで。ストップ！
- ・はい～それでは、始めましょう。

11. スタートなどの合図をする（せーの、など）

13件の回答



<具体的な言葉>

- ・はい、どうぞ。
- ・せーの、スタート。
- ・どうぞ始めてください。
- ・〇〇をしてください。
- ・1、2、3！
- ・では、始めましょう。はい。
- ・はじめ！

12. 学習項目を使って学習者と会話をする

13件の回答



<具体的な言葉>

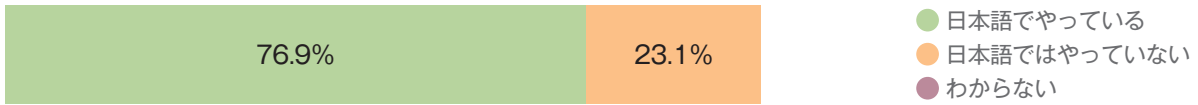
- ・電話番号は何番ですか。
- ・どんな音楽が好きですか。
- ・日本に行ったことがありますか。日本のどこですか。
- ・～を食べたことがありますか。
- ・私のカードを見て、教えてください
- ・私はプサンからきました。キムさんは？
- ・(伝聞の「そう」の学習関連) 明日の天気はどうですか。
- ・(様態の「そう」の学習関連) 私の服、暖かそうですか。／私のボールペン、良さそうですか。

※学習した文型に関連したやり取りを書いてくださった人もいました。

- ・(「なければならない」の学習関連) 皆さんの高校にはどんなルールがありますか。はい、じゃ、まず私から。髪をととても短くしなければなりません。Aさんの高校ではどうですか。髪をととても短くしなければなりませんか。ほかに、何をしなければなりませんか。
- ・(「ほしい」の学習関連) 皆さんは今一番ほしい物がありますか。それはなんですか。どうしてほしいですか。それはどこで買いますか。〇〇さんも同じ物がほしいですか。
- ・先週の土曜日、何をしましたか。「～たり～たり」を使ってください。
- ・けさ何をしましたか。「～て～て」を使ってください。
- ・どうして日本が好きですか。「～し～し」を使ってください。

13. 学習者に発話を促す（ほかには？、それから？など）

13件の回答



<具体的な言葉>

- ・ 学生さんは短く言おうとする傾向があり、短く答えたら「それから何をしましたか。」「ほかになにかしたいですか。」などの質問をします。
- ・ ○○さんの場合はどうですか。
- ・ ほかの言い方、ありませんか。
- ・ (学習者の発話を繰り返して) それから？
- ・ まだ、ありますか。何でもいいですよ。
- ・ あとは？ほかにはありますか。
- ・ そうですか。○○さんはどう思いますか。
- ・ もし～だったらどうしますか。それから？ その後は？
- ・ 例えば？
- ・ それで？
- ・ では、もう一つ聞きます。
- ・ ~の場合は？
- ・ さっきの質問について、なぜこの答えはだめなのか、考えてから答えてください。

14. 学習者の発話が正しいということを伝える

13件の回答



<具体的な言葉>

- ・ OKです。
- ・ 合っています。
- ・ いい例文ですね。
- ・ よく思いつきましたね。
- ・ 私の言いたいことを先に言われました。
- ・ はい、そうです。／はい、正しい。(+板書)
- ・ 上手ですね。よくできました。
- ・ 今のはいいですね。正しいですね。
- ・ 発音が／字がきれいですね。
- ・ いいですね。素晴らしいです。
- ・ 上手ですね。(拍手)
- ・ パーフェクト！
- ・ いいですね。正解です。
- ・ すご〜い！

※「大丈夫です」「問題ないです」という回答もありましたが、これは積極的にプラス評価をしているという印象がないので、気をつけてください。

15. 学習者の発話が間違っていることを伝えたり、訂正したりする

13件の回答



<具体的な言葉>

間違っているということを伝える

- ・それはちょっと違います。
- ・今のはちょっと違いますね。このほうがもっと自然です。
- ・それはちょっと不自然ですね。
- ・違いますよ。
- ・ちょっと違うかもしれません。
- ・〇〇ですか。うーん、ほかの言い方、ありませんか。

もう一度言わせることにより間違いに気づかせる

- ・もう一回。／もう一度。

正しい表現を示す

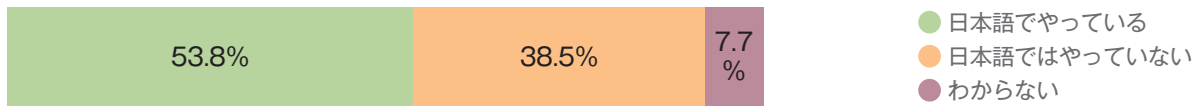
- ・それは「～」がいいです。
- ・ちょっと待って、「て」じゃなくて、「で」です。
- ・訂正してから、もう一度学生に言ってもらいます。
(Tが正しいことを言って。 T：言ってください。)

ヒントを与える

- ・こちらを見てください。(絵を描く)
- ・「入ります」の前は「を」じゃありません。
- ・「きのう」ですよ。「～ます」じゃありません。
- ・例えば、「食べたい」を「食べますたい」と言った場合、「ますさようなら＋たいです」と訂正します。
- ・(訂正したいところで止まったり、イントネーションを上げたり、選択肢を出したりする)
「イベント、参加します。助詞は？」
「イベントを↑参加します？イベントを↑、イベントに↑参加します？」など。

16. 学習者の発話を言い換える

13件の回答



<具体的な言葉>

- ・もう一つの言い方は…。
- ・～と言うことですね。

以下、具体的なやり取りを書いてくださった人もいました。

- ・L: イベントに参加します。 T: ああ、イベントに参加しますね。
- ・L: 一人の時間を享受します。 T: ああ、一人の時間が欲しいですね。一人の時間を大切にします。一人の時間を楽めます。
- ・学生: 明日から三日の休みですね。 私: そうですね。3連休ですね。
- ・T: きのうち何をしましたか。
L: デパートへ行きました。
T: デパートで何をしましたか。
L: 靴を買いました。
T: そうですか。〇〇さんは、きのうデパートへ靴を買いに行きました。

17. 学習者の発話にあいづちを打つ（そうですか、など）

13件の回答



<具体的な言葉>

- ・そうですか。
- ・そうですね。
- ・うんうん。／ああ、

肯定的な感情を伴う言い方

- ・なるほど。／へえー。
- ・いいですね。よかったですね。
- ・すごい、いいですね。
- ・うそ、本当? 知りませんでした。
- ・え～、おもしろいですね。
- ・いいね、いいね!
- ・はい、そのとおりです。

18. 学習者の発話に対して感想を言う（珍しいですね、など）

13件の回答



<具体的な言葉>

学習者の気持ちに寄り添うコメント

- ・へえー、面白いですね。
- ・大変ですね。／大変でしたね。
- ・残念ですね。
- ・よく頑張ったね。
- ・よく思いつきましたね。
- ・そういうこともありますね。
- ・知りませんでした。
- ・さすが。
- ・それはいいですね。／よかったですね。
- ・私も食べたいです。
- ・うらやましいです。

学習者の日本語をほめるコメント

- ・上手になりましたね。
- ・いい文を作りましたね。
- ・すばらしいですね。
- ・皆さん拍手！！
- ・すごい！
- ・最高！
- ・いいですね。素晴らしい！

19. 質問の有無を尋ねる（質問はありますか、など）

13件の回答



<具体的な言葉>

- ・質問はありますか。
- ・質問あったら聞いてください。
- ・大丈夫ですか。
- ・難しいところ、ありませんか。
- ・もう一度説明してほしい人、いますか。
- ・わからないところはないですか。
- ・みんな、わかりましたか。
- ・わからない単語がありますか。

20. 学習者をほめる（すばらしい、など）

13件の回答

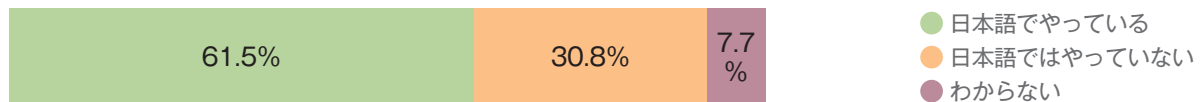


<具体的な言葉>

- ・いいですね。
- ・すごいですね。
- ・よく思いつきましたね。
- ・さすが！
- ・すばらしいです
- ・ほうー、素晴らしい！
- ・よくできました。
- ・上手ですね。
- ・よく覚えていますね。
- ・上手になりましたね。
- ・よくがんばりましたね。
- ・えらい！

21. 学習者を叱る（遅刻してはいけません、など）

13件の回答



<具体的な言葉>

遅刻、欠席

- ・遅れないでくださいね。休まないでくださいね。
- ・前の時間に授業がありますか。
- ・最近遅いですね。何かありますか。ちょっと心配です。
- ・遅刻するとき、これを言ってください。（書く）

授業中の私語（皮肉っぽいものもありますね…）

- ・楽しそうですね。何について話していますか。
皆さんも知りたいかもしれません。教えてもらえませんか。
- ・質問がありますか。質問があるなら、私に聞いてください。
- ・ついさっき授業が始まったんですけど…。

居眠り

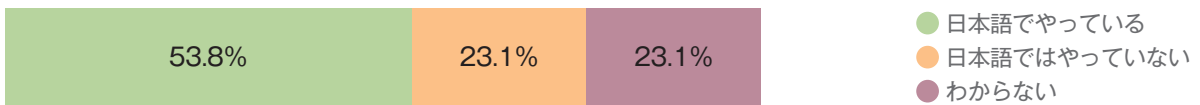
- ・最近、忙しいんですか。
- ・午後、この時間の授業は大変ですね。
私の声も小さくて、ちょうどいいBGMになっているのかもしれない。
- ・あくびをするときは、手で口を隠してください。

宿題忘れ、カンニング、その他

- ・昨日、何をしましたか。どうして〇〇しませんでしたか。
- ・宿題をしないと困りますね。ちょっと…
- ・テストですから、見ないでください。
- ・「すみません。」と言ってください。
- ・注意しましょう。

22. 教師が独り言を言う（なんだっけ、など）

13件の回答

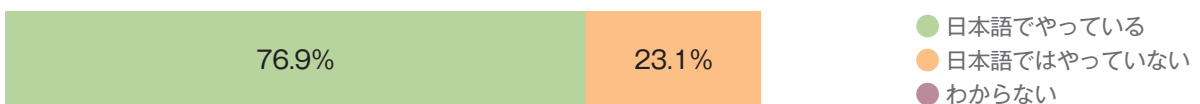


<具体的な言葉>

- ・ちょっと待って。
- ・あれ、おかしいな。
- ・今日パソコンの調子が悪い。
- ・うそ！ファイル入ってないの？入れたはずなのに。
- ・いい例、ないかな。
- ・えーと、そうですね。
- ・なんだっけ。
- ・うーん、ちょっと考えさせて…
- ・しまったしまった。
- ・よっしゃ、いいなあ。
- ・あ、忘れてた。
- ・え？うそ！ありえない。

23. 自分（教師）の間違いを訂正する（間違えました、など）

13件の回答



<具体的な言葉>

- ・「すみません、間違えました。」と言ってから正しく訂正します。
- ・あっ、ごめんなさい。違います。
- ・皆さん、すみません。
- ・すみませんでした。失礼しました。
- ・すみません、間違えました。
- ・あっ、逆でした。
- ・あ、違う。
- ・ここは、〇〇じゃなくて、△△です。修正してください。

- ・ここは〇〇じゃないですよ。△△ですよ。
- ・私、〇〇って言いました？それは間違いです。△△が正しいです。
- ・板書して、「すみません、こちらのほうが正しいです。」

24. 宿題の内容を説明する

13件の回答



<具体的な言葉>

- ・今週の宿題は〇〇です。提出の締め切りは〇月〇日〇時です。
- ・帰って、〇〇についてちょっと考えてください。次の授業のときに皆さんの答えを確認します。
- ・教科書の〇ページの練習をやっておいてください。来週授業中に答え合わせをします。
- ・宿題は〇〇ページの△△です。
- ・会話文を暗記してください。
- ・例のように、短い文を書いてください。
- ・来週の～までに宿題をやってきてください。

以上

資料3 オンライン授業見学コメント一覧

以下、YouTube 視聴後のコメント及び返信を時間の流れに従って記す。

卒業生名 A B C

養成科教員 T1 T2 T3

※数字は、本文中で参照しやすいように便宜上振ったものである。

- 1 T2：T1先生の授業、楽しみです。
- 2 A：授業の動画を見させていただき、ありがとうございます。
一つ確認したいことがあります。コメントを書くときに、全体について感想などを書いたほうがいいでしょうか。それとも、細くなるかもしれませんが、授業の流れに沿って気づいたことを書いたほうがいいでしょうか。
- 3 T1返信：早速見ていただいてありがとうございます。日本以外の国でも積極的に日本語を使って授業を行っている方に動画公開しているので、久しぶりに文化の直接法の授業を見てどう感じるのかということシェアするのが主な意図です。まずは何でも感じたことを書いていただき、そして皆さん自身の日頃の授業の様子なども教えていただければいいかなと思っています。
- 4 T3：コメントは、全体についての感想でも、気づいたことでも、なんでも書いていただけたらうれしいです。一度にど〜んと書いても、ちょくちょく&ちょこちょこ書いていただいてもOKです。それがきっかけとなって、やりとりが始まると思うので、よろしく願いいたします。
- 5 T2：新しく紹介された動詞のて形を学生がすぐに言えるのがすごいと思いました。
- 6 T2：学生は何名ですか。
- 7 T1返信：16名です。
- 8 A：文型を説明するとき、例えば「も」を強く言うなど、強調して発音することがあると思いますが、(5分26秒頃)例文を言う練習のとき、やはり自然な言い方を聞かせたほうがいいですか。
- 9 T1返信：T1です。「てもいいですか」と「てはいけません」が学習項目になっている時間で、特に「も」「は」が混乱しやすいと思うので、形について説明するときは助詞を強調しています。でも、例文と一緒に言うときは自然に発音しているかと思えます。(学習者の声を聞くと、「も」を強く言っている人や、「〜て」「も」の間にポーズを入れている人がいますね。これは後日だんだんと直していくかと思えます。
- 10 A：文型の意味を説明した後に、形の作り方の練習に入ることが多いと思いますが、すぐに

できない学生もいるかもしれません。例えば、簡単な聞く教材で「てもいいですか」のほかの例文（文）をいくつか聞かせてから、形の作り方の練習に入るといふ順番も考えられるでしょうか。

- 11 T 1 返信：T 1 です。「聞く教材」というのがちょっとイメージできないのですが、短い会話を聞かせるということかな？ もちろん、導入の方法の一つとして実際の場面がわかりやすい会話を聞かせるのはとてもいいと思います。これについて、皆さんどう思いますか？ コメントをぜひお願いします。
- 12 A 返信：副教材『楽しく聞こう』があるので、文型を導入した後、形の練習の前に、どこかのタイミングで使えないかな…と思いましたが、CDの音声は、話すスピードが速いので、この段階ではやはりまだちょっと難しいですかね。
- 13 T 1 返信：文型の意味がほんやり理解できた段階で、まだ自分では形も正確に作れないときに『楽しく聞こう』を聞かせるのは、かなりストレスなのではないかと思いますが…。「借りてもいいですか」など、「貸す・借りる」の概念と「てもいいですか」の組み合わせも出てきますし、この段階で聞かせると学習者はどのように反応するのか、実際にやってみたことがないので興味はあります。（でもこわくてできません。）
- 14 A：（6分10秒頃）形の練習のとき、コーラス → 個人 という順番で行っていましたが、個人を当てる場合、普段よくできる学生から指名しますか。
- 15 T 1 返信：正直に言えば、最初の1～2人はそうですね。私は、よくできる、というよりは、指示をきちんと聞いてその通りに答えられる学生を指名します。
- 16 A：6分10秒～23分の間では、文字の提示→音声の提示 という順番で形の練習を行い、学生はだんだん形に慣れてきたように思いますが、地道な練習に飽きる学生はいませんでしたか。（私が接してきた学生は、形の練習が嫌いで、とにかく早く会話の練習をした人が多くいました。）
- 17 T 1 返信：T 1 です。て形もまだ習って間もないころですので、このようにていねい目の形の練習を行いました。が、途中で少し意味の想像できる文（ケーキを食べる、手紙を読む、など）を混ぜ込むことによって、実際に会話の中でこの文型を使うことがイメージしやすくなるといいなと念じながら行っています。名詞も既習の語彙がまだまだ少ないので、あまり広げられませんが…。学生によって違いますが、このクラスではあまり飽きる人はいませんでした。
- 18 B：改めて導入のし方を考えさせられ、勉強しなおしました。カメラを置く場所は、T 1 先生の板書がちょっと見づらかったです。
- 19 T 1 返信：そうですね。すみません。本当は誰かにカメラをおまかせして撮影してもらおうとよかったんですが、できなくて固定カメラの撮影になりました。学生の席の、邪魔にならないところにカメラを置いたのでこのように見にくいアングルになってしまっています。
- 20 C：こんにちは。Cです。授業の動画を見させていただき、ありがとうございました。以下は自分の感想や反省すべき点を書かせていただきます。
- ・自分の授業では日本語での導入もするんですが、その後母語で生徒の理解を確認することができます。この方法は安心できる一方で、緊張感がないため、生徒の集中力が落ちる可能性があると思います。

- ・「～でもいいですか」の導入で、先生はその返事も導入でしていました。私は板書でその返事を書きましたが、導入のときはしませんでした。
- ・同じ返事のところなのですが、先生は表情で「いいですよ」とか「ここはちょっと」とかの説明をしていましたが、私は母語で説明しただけで、表情まで強調しませんでした。
- ・「～でもいいですか」の板書で、「誰が行きますか。私ですね。私がします。OKですか。」のように先生が動作をする人は自分ということを強調していました。私は母語で動作をする人は自分であると説明しましたが、先生のように何回も強調する事はしませんでした。
- ・練習のとき、先生は「辞書形→て形→でもいいですか」の練習を生徒にさせていましたが、私はすぐに文で生徒に練習させ(例:本を借ります。→本を借りてもいいですか。)、て形と「でもいいですか」とを結ぶ練習をさせませんでした。
- ・練習のとき、先生は1人の生徒に言わせた後、クラス全員に同じ文をもう一回言わせていましたが、私はクラス全員にもう一回言わせるということをあまりしませんでした。
- ・10:53のところで、先生は手拍子を使って生徒に速く言わせるようにしていました。これは生徒がすらすら言えるようにするための配慮だと思いますが、自分はテンポについてあまり注意していないことに気がきました。
- ・「～てはいけません」の導入で、先生は「ルールですから、ダメです。」と言っていました、私はルールという事をあまり強調しませんでした。
大雑把に書きましたが、すみませんでした。

先生の授業を見て、いろいろな反省ができました。本当にありがとうございました。

- 21 T1返信：T1です。Cさん、たくさんコメント、ありがとうございます。ご自分の授業の様子も教えてくださってありがとうございます。Cさんのところでは、て形はます形から作りますか？ 辞書形から作りますか？ 学習者に合わせて、いったん「て形」を確認したり、直接「でもいいですか」の文を作らせたり、柔軟でいいと思いますよ。「ルール」ということを強調しないと、「てはいけません」を個人的な依頼に対する返事として使うという誤用が出そうなので、ちょっとしつこく言いました。「もっと速く言いましょう」と言うことで、ちょっとだらだらした空気が変わることもあります。時々は、「自分の言える一番早いスピード大会」をしたりします。(例えば「昨日はあたたかかったですね」など、言いにくい文) けっこうおもしろいですよ。
- 22 C返信：T1先生、返事をいただき、ありがとうございました。こちらでは、動詞の変形はます形から作ります。「自分の言える一番早いスピード大会」ですか。楽しそうですね。今度授業でやってみます。☺
- 23 T1返信：やってみてください。『楽しく聞こう』に出てくる文に、「私の祖母がそばのそば屋でおいしいおそばを食べました」というのがありますが、それも「スピード大会」には使えそうです。「昨日はあたたかかったですね今日は寒いですがね。午後はあたたかくなるでしょうか」などもいいかも。
- 24 C返信：はい。ありがとうございました。

資料4 追加調査内容（アンケート項目）

1. 動画を見ましたか。
見た ⇒何回ぐらい見ましたか。 _____ 回ぐらい
見なかった ⇒どうしてですか。理由を書いてください。
2. コメントしましたか。
はい
いいえ ⇒どうしてですか。理由を書いてください。
3. ほかの人のコメントを読みましたか。
読んだ ⇒読んでどんなことを考えましたか。
読まなかった ⇒どうしてですか。理由を書いてください。
4. ほかの人のコメントに対してコメントをしましたか。
した
しなかった ⇒どうしてですか。理由を書いてください。
5. この活動は役に立ちましたか。
役に立った ⇒何が役に立ちましたか。以下から選んでください。
動画を見る
ほかの人のコメントを読む
自分がコメントを書く
自分の書いたコメントに対するFBをもらった
そのほか何かあったら、書いてください。

役に立たなかった ⇒どうしてですか。理由を書いてください。
6. このような機会がまたあれば授業を見たいですか。
今回と同じ方法（YouTube）で見たい
ほかの方法で見たい ⇒どんな方法がいいですか。具体的に希望を書いてください。
7. 今後、養成科に望むサポートがあれば、具体的に書いてください。